

1. 導入 (10 分) :

(ア) 招きへの感謝

- ① 自己紹介…一宮町安黒の安黒務です。高校生のときは、一年間だけでしたがこの田中一郎くんと同じく山崎高校の野球部のチームメート。大学を出た後、短い期間でしたが、引原ダムのところあった引原小学校で小学校の教師をしていました。その後、合わせて六年間神学校へ行き、牧師また神学校の教師となりました。
- ② 牧師であるとともに、**神学校教師**…「基督教の神学」30 年間、現在は二つの神学校で教えています。母校である関西学院大学にも特別講義に招かれたこともあります。
- ③ いろんな神学雑誌の原稿を書いたり、神学書の翻訳
- ④ 神学校の三年サイクルで教えているもの→**60 分**でできるだけ分かりやすく、講演というよりも、講義のような感じになるので、よろしく。

(イ) お配りしたものの「**使徒信条**」…基督教会の礼拝でいつも唱和されているもの、**聖書**に教えられている**教えの要点**、基督教の柱となる教え

- ① その意味で、今日の講演、あるいは講義にテーマをつけるとしたらー「**基督教入門**」「**聖書入門**」あるいは、「基督教において、天国への入り方」「永遠のいのちの手に入れ方」等…**来世への準備**が必要な時期にさしかかっておられる方にとっては、一番必要な話ではないか。
- ② **聖書とは?**…旧約聖書と新約聖書からなり、**旧約聖書 39 冊**の本、**新約聖書 27 冊**の本で、 $3 \times 9 = 27$ と覚え、**合わせて 66 冊**の本からなっている
- ③ **紀元前 1500 年**くらいから書き始められ、**紀元 100 年**に完成。**約 1600 年**かけて、**約 40 人**の人が**神さまの霊に導かれて**書きとめたもの
- ④ 現世については、「**森の木々の一本、一本**」のように科学的に研究できる。しかし、来世については「**森の外**」に位置するので、だれにも分からない。このことについて語っている「聖書」に聞く以外にない。
- ⑤ 聖書の内容は、最も短いものとして、この「使徒信条」に整理されている

2. 聖書には、第一の教えの柱として「**神さま**」がどういう方が書いてある (15 分)

(ア) 「我は**天地の造り主**、**全能の父なる神**を信ず」

- ① おそらく、むつみ園では夜「**星空**」がきれいに見れるのではないか
- ② 「19:1 **天**は神の栄光を語り告げ、**大空**は御手のわざを告げ知らせる。19:2 昼は昼へ、話を伝え、夜は夜へ、知識を示す。 19:3 話もなく、ことばもなく、その声も聞かれない。 19:4 しかし、その呼び声は全地に響き渡り、そのことばは、地の果てまで届いた。」
- ③ 神さまとは、どういうお方か。それは、**天地宇宙とその中のすべての生き物**を造られた方。

- (イ) 日本では一般的に、カミといいますと**本居宣長の有名な定義**があり「何にまれ、尋常（よのつね）ならず、すぐれたる徳のありて、可畏（かしこ）きものをカミとはいうなり」…おおきな山、岩、木、動物、功績のあって亡くなった人なんでも
- ① しかし、聖書は、それらは**神さまの作品**であって、神さまそのお方ではないと教えている。作品を礼拝するのではなく、**作者**を礼拝することを教えている。
- (ウ) また、もうひとつの考え方として、「**神はいない**」とする**無神論**や「人間は生命のないところから**単純な生命**が生まれ、無限の時間の中で**少しずつ進化**してきたもの」とする考え方があります。そして、人間はカルシウムや鉄分やリンや水分などいろんな物質で構成されているもので、**物質として計算すれば約1000円**の値打ちしかない存在であり、偶然に目的も意味もなく生まれてきて、死んでいく存在である。
- ① 人間の一生とは、「**地下室の裸電球**を交換しようとして、手を滑らせて、電球を落としたようなもの、七八十年ないし九十、百年の落下を経て、コンクリートの地面にたたきつけられ、グシャとつぶれて終わり、死後も天国も地獄もない、消滅して終わり」という無神論的・進化論的な考え方もあります。
- (エ) **しかし、聖書は違います。人間は、神さまの造られた作品の中で、最高傑作**である。太陽や星、山や川は物質であって生命がない。草や木は生命があっても魂がない。虫や動物は本能があっても、神さまと交わることがない。人間だけが、**神の人格**に似せて造られ、神さまと**人格的な交わり**の中に生きるように造られた。
- ① このことが、世界中に数えることができないくらい**宗教が存在する理由**です。「**人間の心の奥底には、神さまとの交わりによってしか埋めることのできない空洞がある**」のです。それは、「宗教心」ということで数えることのできないくらいの宗教を生んできましたが、その「**宗教心**」の本当の目標は、**天地万物を造られた神さまとの人格的交わり**のためにあるのです。
- ② 人間存在というものは、人間として存在するそれだけで**最高の価値**があり、かけがいのない**全能の神の作品**なのです。人間の一生は、神が摂理をもって導かれる、わたしたちひとりひとりが**主役のドラマ**なのです。どんな配役をこなすかにはある程度の制限はありますが、わたしたちひとりひとりにスポットライトがあてられていて、ハリウッドのオスカーの賞をとるような**ドラマを生きる**ことを神さまは期待しておられるのです。本当に素晴らしい映画というのは、きわめて**平凡なストーリー**であるそうです。その中にこそ、人々が求めている普遍的なメッセージが隠されているからです。平凡なドラマをどのように輝いて生きるか、それが人生に課せられているテーマなのです。

1. 世界中に、いろんな花があります。あるものは**宮殿の庭**にあり、あるものは人気のない**山の谷間**にあります。しかし、大切なことは、それぞれの花の置かれた場所で、だれもみていなくても、だれも評価してくれなくても、**精一杯、神さまに向かって咲く**ことが大切なのです。「神の御前に生きる」それが最も大切なことです。そこに、絶対にゆるがない評価をしてくださる方がおられます。
 2. 人生の目的とは何か。それは「神の作品であるわたしたちが、**作品の作者である神の栄光**をあらわし、永遠に作者である神を喜ぶ」ことなのです。
- ③ 神さまが、あなたの存在を、人生を評価してください。昔、イタリアのローマに**大変優れた聖職者**がいました。その人はあるときに、神さまにひとつのことを尋ねたくなりました。「神さま、わたしは地上で大変すばらしい仕事をさせていただきました。感謝します。ところで、わたしが天国に迎えられましたあかつきには、**天国においてわたしの友達是谁になるのでしょうか？**旧約聖書の代表的信仰者のモーセでしょうか。あるいは新約聖書の代表的信仰者のパウロでしょうか？」と尋ねました。
1. 神さまは、すぐには答えず「あなたの友達のところに案内しよう。」とこの聖職者をエジプトのアレキサンドリアに導かれました。港につき、降り立って、いくつかの路地を導かれ、つきあたりの小さな家に「**あなたの天国での友達がいる**」と紹介されました。その聖職者は「どんな立派な人物が、このようなあばらやに住んでいるだろうか？」といぶかりながら、また大きな期待をもって物陰からみていました。その家の人は、靴屋の仕事をしていました。朝早く起きて、聖書を読み、お祈りをして、仕事にいそしんでいました。一日中、こつこつと靴屋の仕事をこなしておりました。そして、一日の仕事を終え、夜になると、聖書を開き、感謝のお祈りをささげて静かに眠りにつきました。一日、二日、三日、一週間と経ちました。しかし、特別立派なことをしているようには見えませんでした。そのときに、その聖職者は気がつきました。
 2. 地上においては、仕事に尊い・卑しいという差別が見受けられるが、**神さまの目からはどんな仕事でも、どんな生涯でも、平等に公平に価値があり評価されている**ことを。
 3. 教育者であった**ペスタロッチの『隠者の夕暮』**という本があります。その最初のところに、「かやぶきの家に住んでいても、王宮に住んでいても、同じ人間。本質からみた人間。これはいかなる者か。」
3. 聖書には、第二の教えの柱として「**イエス・キリスト**」がどういう方が書いてある（15分）

(ア) イエス・キリストは、「ピリ 2:6 キリストは**神の御姿**である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、 2:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。**人としての**性質をもって現れ、」

- ① イエス・キリストは、今から約 2000 年前、**神が人となって**現れられたお方です。西暦は B C と A D で紀元前と紀元後と分かります。B C とは “Before Christ” で「キリスト以前」を表し、A D とは “Anno Domini” 「主イエス・キリストの年」という意味です。歴史はキリストを中心に紀元前と紀元後と分かれています。
- ② 旧約聖書は紀元前に書かれました。アジア、アフリカ、ヨーロッパという **三大陸の架け橋**のような位置で、全人類のためにひとつの民族が選ばれ、神さまがどういうお方であり、神さまがどういうことをなさそうとしておられるのか、を学びました。それが**旧約聖書**です。
- ③ 神さまは、**旧約聖書の預言**通りに、独り子なる神をこの地上に送られました。それが**新約聖書**に書かれています。
- ④ 聖霊の超自然的な働きを通して、「**おとめマリヤ**」より生まれさせられました。
- ⑤ イエス・キリストは、**真の神**であり、同時に**真の人間**でありました。
- ⑥ ですから、神さまがどういうお方であるかは、この広大な宇宙とその中のすべての生き物をみれば分かります。神さまは全能のお方です。しかし、神さまはどのような心の持ち主なのでしょう。どのような人格のお方なのでしょう。全能のお方であっても、のろったり、たたったりされる悪しき心の持ち主、歪んだ人格のお方であれば、わたしたちは安心して生きていくことはできません。

(イ) 神さまとは**どのような心の持ち主**なのか、**どのような人格の持ち主**なのか、を知りたければ「**イエス・キリスト**」を見れば具体的に分かります。

- ① また、**人間とはいかなる存在**なのか、人間は**いかに生きるべきか**、など人間に関する際限のない問いは、「**イエス・キリスト**」を知ることによって答えられます。
- ② **人間を評価する基準**とは何でしょうか。人生を生きてきて、その生涯を**評価する物差し**とは何でしょうか。お金でしょうか。成功でしょうか。学歴でしょうか。財産でしょうか。名声でしょうか。名誉でしょうか。**人間の世界**、地上ではそうかもしれません。しかし、**神の世界**、天上ではそうではありません。人間を評価する**絶対的な基準**、**人の生涯を評価する物差し**は、「**キリスト**」です。イエス・キリストが絶対的な物差しなのです。
- ③ イエス・キリストの生涯からは、多くのことを教えられます。人間は人より高くなろうとする「**上昇**」**思考**が強い存在であり、**人より少しでも低いと我慢**ならない存在です。しかし、イエス・キリストの基本的な思考はその反対

の「**下降**」思考です。

- ④ 神であられたのに、**その立場を固守すべき**こととは思われなかった。創造者が被造物の一員となられた。しかも、地上で**最も貧しいレベルの家庭**にお生まれになった。誕生はむさくるしい馬小屋の馬舟の中でした。
- ⑤ 誕生後まもなく、**いのちをねらわれ、パレスチナから、よその国であるエジプトに逃避行**の身となりました。
- ⑥ **大工ヨセフの息子**として、**貧しい生涯**を送られました。「貧しい」ということは悪いことですか。悪しきことですか。恥ずべきことですか。そうではないことをイエス・キリストは明らかにしておられます。
- ⑦ 「**貧しい者は幸い**である。天国はその人のものだからです。」と言われました。また、「**金持ちが天国に入る**ことは、らくだが針の穴を通ることよりも難しい」とも言われました。
- ⑧ **最も貧しい家庭のひとつ**が、歴史の中にあります。それは、イエス・キリストの生まれた家庭であり、育った家庭です。しかし、その家庭は**最も幸せな家庭**でありました。最も神の栄光をあらわした家庭でありました。
- ⑨ 人生の豊かさは、「物量」的なものではありません。**大きな岩と小さなダイヤモンド**を比べてください。どちらに価値があるでしょうか。
- ⑩ 人間の価値は、学歴や経歴や立場ではありません。それは「**鶏の羽根**」のようなものです。そのような**見せかけの羽根**を全部取り去ったところに、その人の本質が現れます。その人の本質がどのようなものであるかが、人間にとっての**真の価値**なのです。羽根ばかり多くて、**肉づきの悪い鶏**もあれば、逆に羽根は少なく、ここかしこ欠けているが、**丸まると肉のついている鶏**もあるのです。
- ⑪ 「ひときれのかわいたパンがあって、平和であるのは、ごちそうと争いに満ちた家にまさる」(箴言 17:1) とあります。
- ⑫ **貧しさ**の意味：Ⅱコリ「すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。」

(ウ) **苦難**の意味「ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け」

- ① 人生には多くの苦しみがあります。戦いがあります。出産自体も、母親とともに、赤ん坊にとっても「**産みの苦しみ**」が伴います。オッパイから乳をのみ、はいはいをし、つかまり立ちをし、歩き始めます。一語、二語とことばを覚え、幼稚園・小学校、中学校、高校、大学等と**学業の戦い**が続きます。今の時代のように不景気な時代には、**就職の戦い**があり、ビジネスでは**利益の薄い消耗戦**のような戦いがあり、結婚・出産・子育て等々しているうちに**退職の年齢**となり、人生にはさまざの戦いがあり、また苦しみもあります。

肉体の病におかされる時があり、また精神の病におかされるときもあります。
どんなに健康な人にも、肉体の衰えはすべての人に訪れてきます。

- ② 苦しみや病において、「苦しみ」や「病い」そのものだけではなく、その意味が分からないという「苦しみ」がまたあるといいます。
- ③ 「苦しみ」という本の最初に、人間は「意味のある苦しみ」には耐えることができるが、「意味のない苦しみ」には耐えることができない、とありました。
- ④ オリンピックで金メダルを取るための、苦しいトレーニングには喜んで耐えることができます。というのは、その「苦しみ」には意味があるからです。目標があるからです。
- ⑤ しかし、ある捕虜収容所で、山の上に貯水池を作る作業がありました。穴をほり、水槽の石垣を造り、下の川から水をくみあげ、その貯水池を水でいっぱいにしたとき、捕虜の間に歓声があがったそうです。しかし、その直後に、司令官は水を捨てさせ、水槽の石垣を崩し、穴を埋める作業をさせました。捕虜は大きく落胆しました。そして、司令官は再び同じく山の上に穴を掘り、水槽を造り、水でいっぱいにさせました。しかし、再び、水を捨てさせ、水槽の石垣を崩させ、穴を埋めさせました。これを何回か繰り返していると多くの人が発狂して死んでいったそうです。人間は「無意味な苦しみ」には耐えられないということです。
- ⑥ 人間が「生きる」ということは、「苦行」のようなものなのでしょうか。人間が地上の七・八十年、あるいは九十・百年、生きることの意味とは一体何なのでしょうか。

(エ) そして、すべての人が直面する「死」とは何なのでしょうか。ある意味で、すべての人は「死刑囚」のように、いつ訪れるかも知れない「死」のかげにおびえながら生きています。「死」とは何なのでしょうか。「死後」には何があるのでしょうか。これら、すべての問いに、イエス・キリストは答えておられます。

- ① 死の意味「十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり」
- ② キリストの死はどのような死であったのでしょうか。これは、歴史上でもっとも悲惨な死のひとつであります。一世紀のローマ帝国の中で、もっともむごい死刑の方法でありました。生きたまま、十字架に釘付けにする、拷問による死刑の方法でした。炎天下でのどはからからになりました。手足には五寸釘のような釘が打ち込まれました。手首の激痛をやわらげるために、足で支えると足の釘の激痛が返ってきました。周囲の群衆からは嘲りやののしりの言葉が浴びせかけられました。その精神的苦痛と肉体的な苦痛のきわみにおいて、長い時間をかけて死んでいくのでした。
- ③ イエス・キリストが死なれたとき、脇腹に槍をさすと、血と水が溢れて来たとあります。それは、医学的に、心臓に大きな負担がかかり、全身の水が心

臓のまわりに集まって、**心臓破裂によって死亡**されたと考えられます。

(オ) イエス・キリストの死は、**理不尽な死**でありました。なんの罪をない方が、最も残酷な方法で死刑にされたのですから。

- ① しかし、これは聖書に預言されていたものでした。イエス・キリストは、自分の罪のために死刑にされたのではなく、**全人類の罪の身代わり**となって、刑罰を受けられたのです。
- ② 聖書に、明確に書かれています。「人間には、一度死ぬことと、**死後に裁き**を受けることがさだまっている」と。
- ③ イエス・キリストは、私たちひとりひとりが、**自分の罪のために、永遠の地獄に落ちて行くしかない存在**であったものを、救うために、**身代わり**となって、その**すべての刑罰を十字架上で**受けられたのです。

(カ) 罪とは、何でしょうか。ある人は「**私は、自分が地獄にいくほど大きな罪を犯していない**」と思われるでしょう。

- ① しかし、**川で石を**投げ見なさい。小さな石、大きな石、いろんな大きさの石を投げてみなさい。**どの石が沈んで、どの石が浮いてくる**でしょうか。すべての石は水中深くに沈んでいきます。
- ② **罪の大きさは問題ではない**のです。問題は、私たちが**殺人**のような大きな罪を犯すか、**ティッシュ一枚を拝借**するか、の問題ではないのです。私たちが**罪の性質をもつ『罪人』**であるということが問題なのです。
- ③ 旧約聖書のモーセの十戒では、「**殺してはいけない」「姦淫してはいけない**」と書かれています。しかし、新約聖書でイエス・キリストは言われました「憎しみの心をもつものは、すでに**殺人の種**をもっているのだ」「心に情欲を抱くものは、**姦淫の種**を宿しているのだ」と。
- ④ **この問題が解決しない限り**、だれも天国に入ることはできないのです。もし、この問題の解決なしに、フリーパスで天国に入れるとなりますと、天国が“地獄”のようになってしまうからです。
- ⑤ **罪の性質の問題こそ**、人間存在で最大の課題であり、私たちの人生を、家庭を、人間関係を、破滅させていく力なのです。そして、私たちを地獄に引き込んでいく力なのです。
- ⑥ 私たちは、自分の**心の奥底に潜む“罪の性質”**を、神さまによって照らされて、それを悔い改めて、そのための身代わりとなって、**十字架で刑罰を受けられたイエス・キリストを信じる**ことが必要です。そのときに、**神さまの聖い霊である聖霊が働きます**。

(キ) イエス・キリストを信じるとは、聖霊の働きに**“スイッチ”を入れる**ようなものです。**“ゴー・サイン”**を与えるようなものです。神さまはしんしな方ですから、無理強いして働くことはできないのです。あくまで、私たちひとりひとりが人

格的に応答して、「神さまにこの身をおまかせします」と心を開き、明け渡さないと働けないのです。

① 十字架で死なれたイエス・キリストを三日後に、よみがえらせた聖霊が、罪の性質によって死んだような状態にあり、縛られているわたしたちを死体をよみがえらせるように活かしてくださるのです。私たちは、地上にいる間は、一生涯この罪の性質をうちに宿しながら、生きていきます。しかし、その罪の性質のただ中において、神の聖霊が働いてくださることを経験するようになるのです。

② この聖霊の働きこそが、私たちが天国に入れる保証であり、確信なのです。

③ ある意味で、地上にあって、罪の性質の中にある、前もって、天国の“前味”を経験するのです。

(ク) 土地や家を購入するときに、“手付金”をうつでしょう。それは、その土地や家があなたのものとなる保証です。お金は一部の支払いでも、売買契約は成立します。それと同様に、私たちは、イエス・キリストを信じ、聖霊の働きを経験するときに、自分が天国に迎え入れられるという百パーセントの確信をもつことができるのです。ですから、クリスチャンになると「死」を恐れることはありません。「肉体の死」は、「不死の魂」が天国に迎え入れられる入口と確信しているからです。

① 家族の「不慮の死」に直面しても、いつまでも悲しんでいることはありません。それは、天国で再び「再会できる」ことを確信しているからです。

4. 第三に、聖書には、「**とこしえの命**」がどういうものか書いてある (15分)

(ア) この一月に、わたしの家内の父がガンで召されました。臨終の苦しみの病床で、「大村さん、**イエスさまを信じましょう。イエスさまを信じて、また天国でお会いしましょう**」と何回も呼びかけました。大村さんは、もはや口はきけない状態でしたが、大きな目でわたしをみつめて「分かった。信じよう。天国でまた会おう」と答えて、静かに息を引き取られました。

① クリスチャンにとって、「**肉体の死**」はすべての終わりではありません。天国への入口なのです。イエス・キリストが十字架につけられたとき、両側にも十字架が立てられ、**ふたりの強盗**が釘付けにされていました。そのひとりは、キリストを呪いました。しかし、もうひとりの強盗は自分の罪を悔い改め、「**イエスさま、天国ではわたしの名前を覚えていてください**」と語りかけました。そのとき、イエス・キリストは「**あなたは今日、わたしとともに天国にいます**」と言われました。

② 「イエスさま」と心から呼びかけるだけで、天国に入れるのです。「**溺れる者、藁をもつかむ**」とありますが、**死の間際**になったとき、ぜひ「**イエスさま、わたしをあなたのおられる天国に迎え入れてください**」と呼びかけてください。イエスさまは、あなたの心からの叫びを聞き入れて「**あなたを必ず天国**

に迎え入れてくださいます」

③ 聖書に「**主の御名を呼ぶものはだれでも、救われる**」とある通りです。

(イ) 私たちが、**神を信じ、イエス・キリストを信じる**ときに、**聖霊が働かれる**のです。

① 聖霊の働きの第一は、神さまの**聖い臨在**の中で、私たちの**罪が示される**。

② わたしの最初の祈りはこうでした。「神さま、わたしは自分の罪が分かりません。罪が分かりませんから、十字架が分かりません。ですから、神さま、もしあなたが本当におられるのであれば、わたしが罪人であることを教えてください」と。

③ 神さまは、本当に生きておられる方です。無神論者で、進化論を信じているわたしに、いろんなできごとやいろんな本を通して、本当に深い罪人であることを示してくださいました。警察につかまるような罪はなにひとつ犯していませんでしたが、“罪の性質”においては、どんな極悪人にもひけをとらない“罪人”であることを示してくださいました。罪の示しとともに、**十字架を通しての神さまの愛**が示されました。

(ウ) ギリシャ語の「愛」には、四つの言葉があります。「エロス “男女の愛”、ストルゲー “親子の愛”、フィリア “友情”、アガペー “神の愛”」

① ロマ 5:6 私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。 5:7 正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。 5:8 しかし私たちがまだ**罪人であった**とき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は**私たちに対するご自身の愛**を明らかにしておられます。

② 神さまの愛は、「**我が子のために、いのちをも犠牲にして救おうとする母親の愛に近い**」ものがあります。神さまは、私たちが**自分の罪の性質のために、地獄に落ちてしまう**ことから救うために、**神ご自身の最も大切な独り子を身代りの犠牲として十字架の刑罰に処せられた**のです。

(エ) 神さまは、**正しい裁判官**のようなお方です。神さまは愛ある方です。しかし、それだけで、罪人を地獄の炎から救うことはできないのです。裁判官が自分の家族の裁判をして、親の愛情から無罪放免にしたら、それは“**不正な裁判官**”として非難されます。**裁判官は私情抜きにして、法律に基づいて裁判を遂行**しなければなりません。

① 聖書には、<1Jo>1:9 「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、**神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、**」

② Iヨハ「もしだれかが罪を犯すことがあれば、**私たちには、御父の前で弁護する方がいます。義なるイエス・キリスト**です。 2:2 この方こそ、私たちの罪のための——私たちの罪だけでなく、世全体のための——なだめの供え物

です。」とあります。

- ③ 聖霊はイエス・キリストを信じる者のうちに住まわれる。このことは、
- ④ <Eph> 1:13 この方にあつてあなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押されました。 1:14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。

(オ) 聖書の神、キリスト教の神—三位一体の神「父・子・聖霊」—唯一の神、しかし単一の神ではない、「ひと房のぶどう」複数性を宿す唯一性—ひとりの人間が自分の心の中で「自問自答」することに似ている

- ① 聖霊は、天から注がれる雨のように注がれている。「バケツも、下を向けておいておくと、一滴の水も入らない。上を向けて置くと、バケツは雨水でいっぱいになり、溢れる。」私たちのすること、神さまに向けて素直になり、心を開くことのみ。
- ② キリスト教や聖書の教えに興味や関心を抱き始めることも、聖霊の働きのひとつ、罪を示され、イエス・キリストを信じることも、振り返ってみるとすべて聖霊の働き。

(カ) 教会とは、罪ゆるされた罪人の集まりである。

- ① 心の中で信じていることを公けにする儀式「洗礼」、教会に加入する儀式—相思相愛であり、公けに結婚式をあげることに似ている。
- ② 洗礼準備会や洗礼式で聞かれることは、使徒信条の内容を信じているかが聞かれる。「あなたは、天地創造の全能の神を信じますか？、あなたは、主イエス・キリストが神の独り子であることを信じますか。あなたは聖霊を信じますか。あなたは、あなたの救い主、イエス・キリストが十字架の上にかかって、あなたの罪のために死に、葬られ、三日目に死人の中よみがえられたことを信じますか。」等を聞かれ、「信じます」と答えて、洗礼を受ける。
- ③ 心で信じているだけでも「すでにクリスチャン」であるが、「隠れクリスチャン状態」である。洗礼を受けて「公のクリスチャン」になることによって、その信仰は教会の交わりの中で養われる。

(キ) 信仰者は、肉体の死において、肉体は朽ち果てるが、「魂は不死」である。死後にあるイエス・キリストの審判において、十字架の代償的贖罪によってゆるされ、その「不死の魂」は栄光のからだを着せられ、キリストとともに永遠に生きることになる。

- ① 地上での生の意味と天上での永遠の意味。「子どもがポニーの子馬をもらって乗る練習、それは天国で競走馬を乗りこなすためである」

5. 結び (5分)

(ア) 教会で「アーメン」というでしょう。あれは聖書のことばで、「真実」という意味です。「心からお祈りしました」という意味で「アーメン」というのです。

使徒信条

むつみ園 講演

2009/08/26 水曜 2:00-3:00pm

安黒務

- ① 今日、学びました「使徒信条」を心をこめて唱和することができたら、心から信じて唱和することができたら、あなたはもうクリスチャンです。
- ② この「使徒信条」を深く理解し、心から信じて唱和できるものとなってください。
- ③ そして、神さまから「永遠のいのち」をいただいて、天国に迎え入れられるものとなってください。
- ④ あなたの家族、親族とともに信じるものになって、天国で再会するものとなってください。

(イ) では、ひとことお祈りしますので、こうべをたれてください。

- ① 祈り

使 徒 信 条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はそのひとり子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人の内よりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて生ける者と死にたる者とを審きたまわん。我は聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、どこしえの命を信ず。アーメン。

主 の 祈 り

天にまします我らの父よ。ねがわくは御名をあがめさせたまえ。御国をきたらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。我らに罪をおかす者を、我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。我らをこころみにあわせず、悪より救いいだしたまえ。国とちからと栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

＜創世記＞1:1 初めに、神が天と地を創造した。

＜詩篇＞19:1 天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。 19:2 昼は昼へ、話を伝え、夜は夜へ、知識を示す。 19:3 話もなく、ことばもなく、その声も聞かれない。 19:4 しかし、その呼び声は全地に響き渡り、そのことばは、地の果てまで届いた。

＜ローマ人への手紙＞1:20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められる

＜創世記＞1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

＜マタイによる福音書＞6:29 しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。 6:30 きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくして下さらないわけがあるのでしょうか。

＜ヨハネによる福音書＞1:18 いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。

＜ピリピ人への手紙＞2:6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、 2:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、 2:8 自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。 2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。

＜第二コリント人への手紙＞すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。

＜ローマ人への手紙＞5:6 私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。 5:7 正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。 5:8 しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

＜ヘブル人への手紙＞9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている

＜ヨハネによる福音書＞3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

＜ヨハネによる福音書＞20:31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

＜エペソ人への手紙＞1:13 この方にあってあなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押されました。 1:14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。

ようこそ教会へ

山崎チャペルは、スウェーデン・バプテスト系プロテスタントの日本福音教会の開拓の枝教会です。安黒務牧師の郷里である宍粟郡の（五つの町／山崎町・一宮町・波賀町・千種町・安富町）の中心地の山崎町のジャスコのすぐ近くで日曜礼拝を開催しています。家族的な雰囲気の楽しい教会です。みなさんのお越しをお待ちしています。



Welcome to Yamasaki Chapel

礼拝 教会学校

山崎チャペル礼拝

日時：毎週日曜日 午前10:00～10:40

場所：山崎町山田48ハイツ芝花102
咲ランドジャスコすぐそば TEL.0790-63-0252

- 小さな集会室での家庭的な礼拝です。礼拝後、コーヒーを飲みながらの楽しい語らいのひととき、ギターを片手に賛美をし、聖書を短くひもときます。
- 無料・新来者歓迎・・・幼児からお年寄りまで、いろんな年齢層の方が自由に出席されています。

